



自然観察

No. 114

2015.6月

目 次

| | |
|--|----|
| ・2015年度総会終わる | 2 |
| ・2015年度北海道自然観察協議会全道研修会のご案内 | 2 |
| ・総会講演「防風林と雪虫と」 | 4 |
| ・会費の早期納入についてのお願い | 6 |
| ・特別報告「スズメのお母さんになりました」 | 7 |
| ・第26回「滝野の自然に親しむ集い」のご案内 | 8 |
| ・フィールドニュース | 9 |
| ・北海道自然観察協議会創立30周年 記念講演会・パネルディスカッション開催のご案内 | 12 |
| ・ウォッチングレポート | 12 |
| ・参加者の声 | 13 |
| ・ウォッチングプラン | 14 |
| ・事務局だより・連絡先 | 16 |



9羽のヒナを引き連れて移動中のマガモ 野幌森林公園 6月

2015 年度総会終わる

2015 年度北海道自然観察協議会総会は、4 月 12 日(日)に札幌エルプラザで開催されました。2014 年度の事業報告並びに決算報告が承認されました。また 2015 年度の事業計画案並びに予算案もそれぞれ原案通り承認されました。

総会終了後、元札幌医科大学医学部物理学講師の山田大邦氏による「防風林と雪虫と」と題する講演が行われました。

14 年度事業報告並びに 15 年度事業計画につきましては、基本的に会報 113 号に掲載したものと変わりはありませんが数字の確定、訂正等により下記部分の訂正・修正案が提案され承認されました。なお、年度末に確定した 14 年度決算並びに 15 年度予算についても合わせて掲載いたします。

《2014 年度事業報告関係》

1. 観察会実施状況報告について

(1) 一般観察会

2014 年度の観察会は、滝野の集いを除き 46 回開催され、3 回開催中止を除き現在(3/31)まで 43 回開催され、無事終了しました。このうち報告書未着及び不備の 3 回開催を除く 40 回開催について集計しましたので概要を報告します。

一般参加者 延べ 525 人、参加指導員数 延べ 140 人

7. 組織の状況について

3 月末現在で会員数 278 名

10. 他機関との連携・交流について

(2) 共催・後援など

後援：札幌市教育委員会、第 14 回北大校

内親子で楽しむ雪の観察会を各々削除

【備品・分野別ガイド】

☆観察会用物品の備品中の小型旗(3 枚 須田節保管)を削除

《2015 年度事業計画関係》

1. 観察会の開催について

(1) 今年度の観察会実施計画は、別表「2015 年度自然観察会予定」の通り、「滝野の集い」を除き 45 回開催が予定されています。(3 月 31 日現在)

2. 指導員の研修について

(1) 全道研修会(案)

テーマ：「道東の森と湖をめぐる」

日時：2015 年 9 月 12 日(土)～13 日(日)、雨天決行

2015 年度 北海道自然観察協議会全道研修会のご案内 ～道東の森と湖をめぐる～

◆日時 2015 年 9 月 12 日(土)～13 日(日) 雨天決行

◆行程

第 1 日：JR 札幌駅北口(出発 7:30)→(道東道経由)→津別町チミケップ湖畔→癒しの森(ノンノの森)→弟子屈町屈斜路湖畔・和琴半島→同砂湯→国民宿舎「ホテル川湯パーク」(宿泊) ※夕食後研修会・懇親会

第 2 日：早朝散策・アトサヌプリ(硫黄山)～国民宿舎ホテル川湯パーク→摩周湖(第 1 展望台→第 3 展望台)→(阿寒湖国道・道東道経由)→JR 札幌駅北口(到着・解散 19:00)

◆定員 28 人

◆参加料 17,000 円～23,000 円(現地集合宿泊のみ 7,500 円)

◆問い合わせ先：横山武彦 Tel.011-387-4960 e-mail：y-hiko@rapid.ocn.ne.jp

2014年度 NOC会計決算(2015 3/31)

収入の部

単位(円)

| 項目 | 14年度予算(A) | 14年度決算(B) | 摘要 |
|------------|-----------|-----------|----------|
| 前年度繰越 | 443,255 | 443,255 | |
| 会費 | 430,000 | 365,500 | |
| 観察会・研修会参加費 | 50,000 | 51,134 | 観察会障害保険代 |
| 雑収入 | 1,000 | 9,379 | 寄付金、利息 |
| 合計 | 924,255 | 869,268 | |

支出の部

単位(円)


| 項目 | 14年度予算(C) | 14年度決算(D) | 摘要 | |
|------|-------------|-----------|---------|----------------------|
| 事務費 | 通信費 | 30,000 | 34,777 | 理事連絡費補助 |
| | HP管理費 | 10,000 | 80,000 | HP管理費 |
| | 消耗品・雑費 | 20,000 | 28,372 | 郵券代、込用紙印字代 コピー・文具代など |
| | 会議費 | 50,000 | 24,970 | 理事会会場費 理事会旅費補助 |
| | <小計> | 110,000 | 168,119 | |
| 会報費 | 会報郵送費 | 150,000 | 99,506 | 会報発送代(クネメール便 4回) |
| | 会報印刷代 | 280,000 | 216,324 | 会報発行費(4回) 封筒印刷代含む |
| | 原稿謝礼代 | 5,000 | 0 | |
| | 通信費・振込料 | 10,000 | 3,280 | 編集部関係郵券代 振込手数料など |
| | 消耗品・雑費 | 10,000 | 7,576 | 宛名ラベル代・文具代など |
| | 駐車料、編集作業室料 | 6,000 | 7,400 | 編集・発送作業駐車料、作業室料 |
| <小計> | 461,000 | 334,086 | | |
| 活動費 | 観察会費 | 50,000 | 32,005 | 参加者保険料 保険料振込手数料 |
| | 総会開催費(兼研修会) | 30,000 | 16,729 | 講師謝礼・旅費 懇親会費講師分 会場費 |
| | 全道研修助成 | 60,000 | 60,212 | 講師謝礼 資料代 運営補助費として |
| | 開催地研修会助成 | 40,000 | 2,500 | 講師謝礼 資料代 運営補助費として |
| | フォローアップ研修会 | 40,000 | 23,430 | 講師謝礼・旅費 懇親会講師分 会場使用料 |
| | 救急救命講習会 | 16,000 | 3,100 | 講師派遣費 会場費 |
| | 雑費 | 10,000 | 1,912 | 振込手数料 郵券代 文具・消耗品など |
| | 団体加入費 | 3,000 | 3,000 | 高山植物ネットワーク加盟費 |
| <小計> | 249,000 | 142,888 | | |
| 予備費 | 104,255 | 0 | | |
| 合計 | 924,255 | 645,093 | | |

収支残高


総収入(B)869,268－総支出(D)645,093＝残金224,175
翌年度繰り越し

| | | |
|-------------------------|---------------------|---------|
| 30周年特別会計 (ゆうちょう定額預金) | 13年度繰り越し金(13年度決算より) | 430,000 |
| | 14年度積立金 | 0 |
| | 預金利息 | 8,958 |
| | 合計 | 438,958 |

2015年4月12日 上記の通り決算報告します。

会計 三澤英一 

2015年4月12日 上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます

監事 佐藤祐一 

林 満 

2015年度 NOC会計予算案

収入の部

単位(円)

| 項目 | 14年度予算(A) | 14年度決算(B) | 15年度予算(C) | 増減(C-A) | 摘要 |
|------------|-----------|-----------|-----------|----------|-------------------|
| 前年度繰越 | 443,255 | 443,255 | 224,175 | -219,080 | |
| 会費 | 430,000 | 365,500 | 450,000 | 20,000 | 会員250名(2000円×0.9) |
| 観覧会・研修会参加費 | 50,000 | 51,134 | 40,000 | -10,000 | 観覧会参加費(保険代、資料代) |
| 積立金取り崩し | 0 | 0 | 238,958 | 238,958 | ※特別会計より補填 |
| 雑収入 | 1,000 | 9,379 | 1,000 | 0 | 利息など |
| 合計 | 924,255 | 869,268 | 954,133 | 29,878 | |

支出の部

単位(円)

| 項目 | 14年度予算(D) | 14年度決算(E) | 15年度予算(F) | 増減(F-D) | 摘要 | |
|------|-------------|-----------|-----------|---------|---------|----------------------------|
| 事務費 | 通信費 | 30,000 | 34,777 | 35,000 | 5,000 | 理事連絡費補助 |
| | HP管理費 | 10,000 | 80,000 | 80,000 | 70,000 | HP管理費(※リニューアル7万円+HP更新料1万円) |
| | 消耗品・雑費 | 20,000 | 28,372 | 15,000 | -5,000 | |
| | 会議費 | 50,000 | 24,970 | 30,000 | -20,000 | 理事会会場費・お茶代 理事会旅費補助 |
| <小計> | 110,000 | 168,119 | 160,000 | 50,000 | | |
| 会報費 | 会報郵送費 | 150,000 | 99,506 | 120,000 | -30,000 | 会報発送代(メール便 4回) |
| | 会報印刷代 | 280,000 | 216,324 | 250,000 | -30,000 | 会報発行費(4回) 封筒印刷代含む |
| | 原稿謝礼代 | 5,000 | 0 | 0 | -5,000 | 15年度よりカット(原稿は会員に依頼) |
| | 通信費・振込料 | 10,000 | 3,280 | 5,000 | -5,000 | 編集関係郵券・振込料 |
| | 消耗品・雑費 | 10,000 | 7,576 | 10,000 | 0 | 宛名ラベル代、文具代など |
| | 編集会議費 | 6,000 | 7,400 | 10,000 | 4,000 | 編集会議会場費・お茶代、駐車料など |
| <小計> | 461,000 | 334,086 | 395,000 | -66,000 | | |
| 活動費 | 観覧会費 | 50,000 | 32,005 | 40,000 | -10,000 | 参加者保険料 保険料振込手数料 |
| | 総会開催費(兼研修会) | 30,000 | 16,729 | 25,000 | -5,000 | 講師謝礼・旅費 懇親会費講師分 会場費 |
| | 全道研修助成 | 60,000 | 60,212 | 50,000 | -10,000 | 講師謝礼 資料代 運営補助費として |
| | 開催地研修会助成 | 40,000 | 2,500 | 30,000 | -10,000 | 講師謝礼 資料代 運営補助費として |
| | フォローアップ研修会 | 40,000 | 23,430 | 0 | -40,000 | 周年事業のため15年度は実施せず |
| | 指導員講習会 | 0 | 0 | 150,000 | 150,000 | ※NAC-J指導員講習会助成 |
| | 救急救命講習会 | 16,000 | 3,100 | 10,000 | -6,000 | 講師派遣費 会場費 |
| | 雑費 | 10,000 | 1,912 | 10,000 | 0 | 振込手数料 郵券代 文具・消耗品など |
| | 団体加入費 | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 0 | 高山植物ネットワーク加盟費 |
| | <小計> | 249,000 | 142,888 | 318,000 | 69,000 | |
| 予備費 | 104,255 | 0 | 81,133 | -23,122 | | |
| 合計 | 924,255 | 645,093 | 954,133 | 29,878 | | |

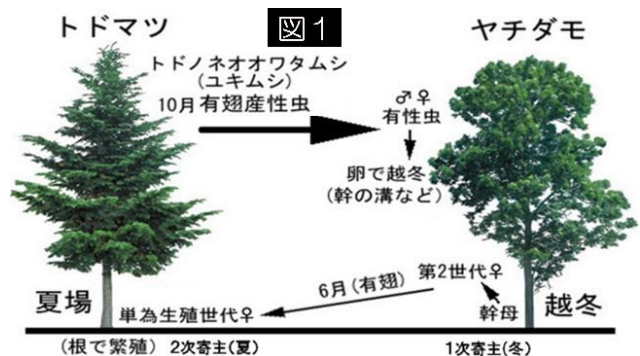
30周年特別会計 438,958 →238,958を一般会計に補填、うち150,000をNAC-J講習会に助成
 (うちちよ定額預金) 残り200,000を周年事業に(講演会会場費、講師謝礼・旅費など)

総会講演『防風林と雪虫と』 元札幌大物理学講師 山田大邦

晩秋に飛ぶ綿毛を付けた雪虫はふわふわと漂う雪を想像させる。その綿毛はどのような構造をし、虫の体とどのような関係になっているのだろうか。雪虫は何処から来るのか。石狩低地帯の湿地にはヤチダモが多い。昭和10年代に北大農学部の河野広道さんがトドマツとヤチダモを通年で行き来することを確定した。トドノネオオワタムシが、晩秋にヤチダモに戻って来る所を見かけるのが「雪虫」。

硬い殻を持たず、じっと樹液を吸う動作緩慢なアブラムシである雪虫は何故生き延びて来られたのか？

越冬卵からメスだけが生まれ、メス単独で多数の子(クローン)を産めて、しかも、卵ではなく子虫



を産むので増殖が速く、また年間6世代と世代交代が速く越冬前には、有性生殖で環境変化に対応できる(図1)。

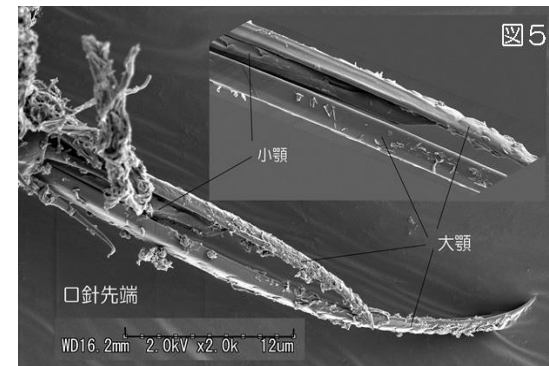
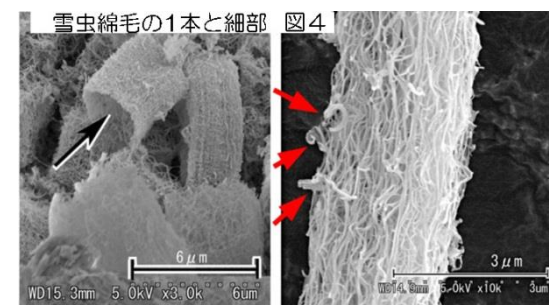
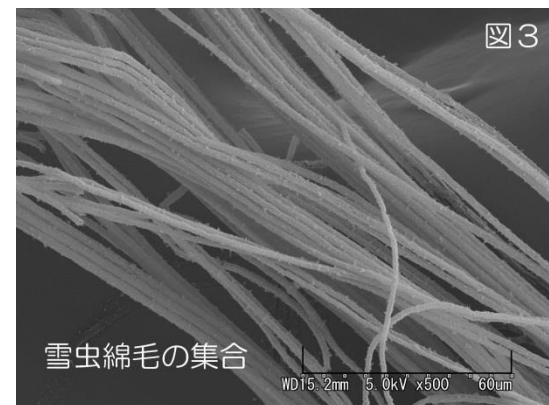
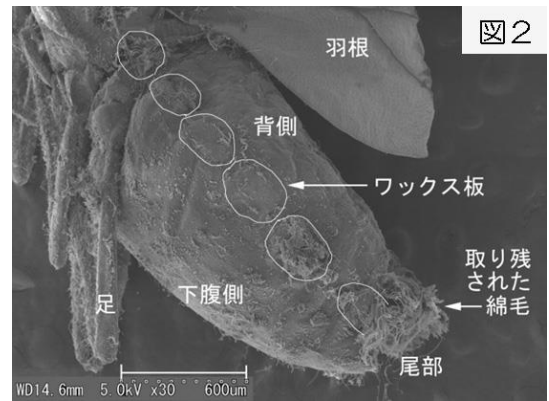
また、甘露を出してアリに供給し代わりに天敵から守ってもらえる共生関係を築いている。さらに体内にブフネラ菌を飼っていて、不足する栄養分を補給してもらい、体内共生を築いているなどが考えられる。

秋の雪虫の綿毛は体の何処から？10個程の体節の連なりからなる雪虫幼虫の背中側には左右3列づつ各体節毎に、まとまって綿毛が生えるワックス板がある。翅の生えた雪虫成虫では体側の1列のワックス板のみが残っている(図2)。1つのワックス板は0.15×0.25mm程の大きさであり、そこに綿毛2500本程がびっしりまとまって生えている(図3)。その綿毛を拡大してみると、1本が3 μ m(3/1000mm)程で、さらに1本の綿毛がその1/100程の太さの微細繊維が波打った集合から成ることが分かる。綿毛1本の断面を見ると微細繊維は周辺に多く、綿毛はパイプ状になっている(図4左)。翅のある成虫が飛んでいる時、体の周りに中空の綿毛の集合体「浮き」が着いた状態になっていて、目的物周辺を漂うのに適していると思われる。

体から出てくる細い微細繊維の成分を分析すると、炭素が25個や27個が真っ直ぐ繋がった飽和炭化水素(熱分解するとプロパンやガソリンを作れる)が主成分で融点は、54°Cや60°Cと常温では固体。体の中からは微細繊維として出てくるので、細く長い曲がったパイプを通らねばならず固体では通れない。液状(図4右)を思わせる部分もあり、解決できていない問題である。

雪虫第1・第2世代はヤチダモの葉裏に居て、ヤチダモの師管液(葉で作った栄養液)を飲んでいる。各世代の1回目の脱皮前の1齢幼虫は、体長0.8mm程なのに口吻(口吻)は1.2mmほどもある。師管までの深さは0.5~0.8mm程有り、口吻の中の口針がヤチダモの師管まで届く必要があるためだ。口針の太さは6 μ m程(図5、6)で、師管液の通る道(図6の食物管)は2 μ mほど。その太さの600倍の長さのパイプの中を師管液が流れることになる。しなやかなパイプ内は濡れ易く毛管現象で師管液が上がってきて、さらに体内には吸い込むポンプを備えている。またヤチダモの葉の細胞の間を辿って口針が師管に届くまでのトンネルを唾液で塗り固め、師管液が口針通路外に漏れ出ない様に工夫している。植物の細胞より細い針だからこそ出来る技。人の肌に注射する注射針は0.4mmほどで、痛覚は1ミリ四方に平均1個なので、チクリと痛みを感じるのが普通。蚊の口針は直径0.04mm(40 μ m)ほどで痛覚に当たることが少ない。蚊の針構造を真似た痛くない注射針の開発が盛んになっている。雪虫(アブラムシ)の口針は蚊よりもさらに1桁小さく植物を傷付けない細さになっている。植物は硬い細胞壁を持つので、切り込む時に口針の外側に鋸(図5)ができており、この構造は科の異なる蚊でも同様の構造を持つのは興味深い。

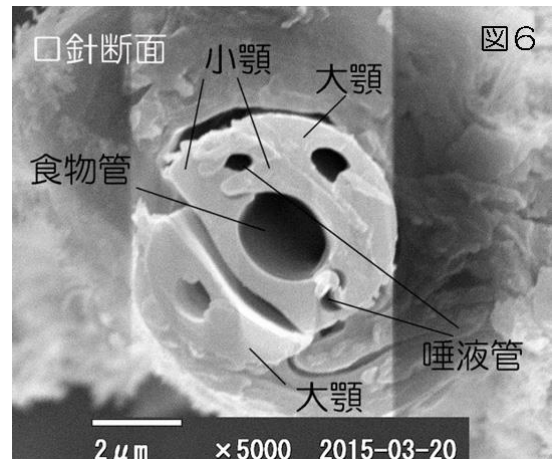
師管液は栄養が偏っていて発育できないのに何故増える？吸った師管液中のアミノ酸を必須アミノ酸に作り替えさせることをブフネラ菌に命じ、ブフネラ菌に必要な材料はアブラムシが作っている。その体内共生は2億年前から始まった。体内に飼っているブフネラ菌は抗生物質で死滅させ



ることができるが、滅菌した雪虫(アブラムシ)は、必須アミノ酸がないために生育できない。真核生物の細胞内のエネルギーATP を作り出すミトコンドリアに類似していると言える。

こうして大量発生を可能にした雪虫を含むアブラムシは、多くの天敵の餌(ヒラタアブ幼虫 1 匹がアブラムシ 600 匹を食べて成虫になるなど)となり、自然の生態系の中で、「陸のプランクトン」と呼ばれる重要な地位を占め、多様な生物の必要性を意味している(人間には農業害虫であるが)。

38 億年前に生命が発生してから幾度かの大量絶滅があり、古生代・中生代・新生代と動植物相が変わってきた。地球の固有な運動に拠る巨大大陸の生成・分散が引き起こす火山噴火と連動する酸素炭酸ガス濃度の変動などの他に、天体衝突などが原因となっている。人類が自然破壊(遺伝子組み換えを含む)を始めて 21 世紀末までには、次の大絶滅を作り出す必然性がある。人類の活動により、現在は年間 4 万種の絶滅が進み、100 年間では 400 万種(50%の絶滅)となる。億年単位で続き、環境変化に対応してきた貴重で多様な生命の消滅は、人類の存立基盤を崩している。もっと謙虚に自然に学び、省エネの循環可能な世界を本気で作り出す必要がある。



—会費の早期納入についてのお願い—

日頃から、当協議会の活動にご支援をいただきありがとうございます。

本会の活動は、会員の皆様から寄せられる会費を唯一の財政基盤としております。会報に掲載しました 14 年度決算および 15 年度予算をご覧になってお分かりのように、近年、会員数減に伴い会費収入が大幅に減じ、財政を圧迫している状況です。そのため、今年度より会費を値上げさせていただきましたが、これ以上会員が減ると、活動の縮小やさらなる会費値上げを検討せざるを得なくなります。

そのような状況ですので、皆様には、これまで以上絶大なご支援を賜り、会員の継続を強く願う次第です。また、今年度は NACS-J の指導員講習会や本会創立 30 周年記念事業も計画されています。これらの運営をスムーズに進めるためにも、会費を早めに納入いただけますよう、宜しく願いいたします。

- 本年度から年会費は、個人会員は 2,000 円、家族会員は 3,000 円になりました。
- すでに 27 年度分の会費を納入された方も含め、全員に振り込み用紙を同封しました。封筒宛名タックシールに納入状況を記載しておりますのでご覧下さい。
- 会員台帳と出納簿でチェックしていますが、もし間違いがあれば至急事務局もしくは会計までご連絡をお願いします。
- 退会の申し出あるまでは会員です。本年度をもって退会される方は、27 年度までの会費を納入の上、事務局または会計担当までご連絡下さい。

郵便振替口座 02710-1-8768

会費振込加入者名 北海道自然観察協議会会計 三澤 英一



特別報告 スズメのお母さんになりました

札幌市 原島 和子

6月1日、近所の懇意にさせていただいている電器屋さんから子スズメ3羽を預かり、ミルワーム、ブドウ虫、カボチャパンやご飯粒の牛乳浸し、茹で卵の黄身、野菜等を与え大きくなると剥き餌と豆苗に替えて、育ち方の違う大中小の3羽をいろいろな方に相談しながら無事に育てました。

お陰様で7月7日と8日に3羽のスズメは、我が家から飛び立って行きました。7日に2羽が飛び出し、一晚1羽で寂しかったのでしょうか。8日朝6時過ぎに居間のガラス戸を開け、台所の冷蔵庫の中の大好物のブドウ虫を器に入れて居間を見ると、外の餌台から2羽の兄弟が呼んでいたのでしょうか。残りの1羽が飛行機が斜めに飛ぶように格好よく飛び出して行きました。感無量でした。

いきなり巣ごと3羽の子を失った親スズメは、どんなに悲しんだでしょう。でも無事に3羽を放鳥出来て肩の荷が下りました。

庭の目の前の餌台に、6月この時期子スズメを連れてスズメ達が餌を食べに沢山来ます。庭に来るスズメと3羽を合流させるために慣れさせようと、居間のガラス戸を開けて鳴き声を聞かせる等しました。



我が家の餌台に来る親子連れは皆、子スズメが1羽です。

かごの中で3羽は、羽を震わせてエサを私の手から食べませんがお腹がいっぱいになると、バタバタ暴れて逃げ回りました。

3週間も過ぎた頃、大きめな鳥かごでも3羽には小さく感じ、1階の居間に放しました。

先客である、友人から預かっている4羽の手乗り文鳥達は、自分たちが巣作りしている棚の上を3羽が陣取っ

ても威嚇して追い払う訳でも無く、何故か脅えていました。

私の姿を見ると、いつも3羽は大騒ぎで居間の天井近くを飛び回っていました。寝るのは居間のカーテンのカーテンレールでした。

この写真は友人が、3羽がまだ籠の中にいた時に籠の入り口から撮って下さいました。私が写そうとして近づくと、バタバタとかごの中で暴れて撮れませんでした。

会合にも講演会にも山歩きにも母の施設にも友人宅へも、毎日のように出掛けましたので、自分で餌を採れるようになるまで携帯用の籠に3羽を入れ、エサと水とを持ち連れ歩きました。山菜取りの時はリュックの中に籠を入れ背負い、リュックの口を開けたままにして時々、同行の方々に3羽を覗いていただきました。外では野鳥が鳴いているのに、3

羽は一度も鳴きませんでした。

何年も前に2階のベランダの上の方に1つ1つ中に仕切りを作って、長屋の様につながった8個の巣箱を取り付けました。今年6月に3羽の子スズメが使えるように、4個にして1階のベランダの軒下に移して設置しました。巣箱の中を見ると葦と卵が入っているのもありました。

今、3羽は餌台に毎日餌を食べに来ているだろうと思うだけでも、幸せな寂しさもあり複雑な心境ではあります。目印にリボンを付けておけばとか、尾っぽに赤い色を付けておけば良かった等と冗談半分に友人達と話し合ったりしています。

数週間は、3羽がまだ居間にいるような気配がありました。

スズメ達野鳥が人の設置した餌台を頼らなくても、自然の中で十分な餌が採れるような環境を、人間が一日も早く作ってやれますように祈りながら。

(編集部から：この報告は2014年度に頂いていたものです。)

第26回「滝野の自然に親しむ集い」のご案内

「滝野の自然に親しむ集い」の日程が下記のようにになりました。

たくさん子ども達やその家族と過ごす2日間です。指導員としてのフォローアップ研修にもなります。多くの指導員の方々のご参加、ご協力をお願いいたします。ご協力いただける方は担当者(池田)へご連絡ください。

◎実施日：8/1(土)～8/2(日)

◎実施場所：滝野自然学園

◎指導員参加費：5,000円

◎内容：せせらぎウォッチング・夕食作り・キャンプファイヤー・ナイトハイク・星空ウォッチング・自然観察ハイキング他

◎連絡先：池田(011-708-6313)

*7月15日(水)まで参加される方はお知らせください。

ご都合の悪い方は1日参加でも結構です。事前の下見を実施します。

・1回目は7/18(土)現地集合12:30～16:30。2回目は7/26(日)現地集合9:00～13:00
昼食、図鑑、双眼鏡、ルーペ(あれば)準備 小雨決行、下見と打合せ。

・下見集合場所・時間(車乗り合わせ後、滝野学園へ)：地下鉄南北線自衛隊駅裏口：7/18 乗
合せ集合12:00、7/26 乗合せ集合8:30

(車で札幌方向から平岸通りを真駒内方面に行き、「マックスバリュ澄川店」前信号を左折、
地下鉄シェルターに沿って50メートル)

3年間の調査から

幕別町 伊東 多美子

2012年の北海道フラワーソンに参加した時、オニグルミの直立した赤い花に出会い、穂状の長い花を成り花と思っていた私の間違いに気づきました。その時のメンバー4人で、帯広神社と水光園の植物調査を3年間続けてみようということになり、1年目は10月まで、次年(2013)は5月から10月まで、今年(2014)は4月14日から11月17日まで月2回を目標に観察をしました。

月2回で歩くと、つぼみ、花、小さな実から果実、葉や茎とともに名前が確認でき調査の醍醐味を実感できました。3年続けて帰化植物は少なく、神社は老樹や大木に成長の限界を知り、植物の世代交代を見ることができました。水光園では、住宅化が進み住民からの要請で成長した樹木が伐採された結果、池の水が干され池の森で営巣していたアオサギ達は来年大丈夫だろうかと危惧した次第です。先日(15日)、近くの池で20羽ほどのアオサギが木に留まっているのを見ました。水光園からアオサギのコロニーが移転するのかわれられました。

【確認できた植物の概数】

| | 神社 | 水光園 | 備考 |
|--|-----|-----|--|
| 2012年 | 244 | 257 | 生えている植物の名前を確認しながら |
| 2013年 | 44 | 69 | 新しく出会えたものと、昨年不明だったものを確認しながら、大樹の太さ(直径)を測ってみました。 |
| 2014年 | 16 | 31 | まとめができるように確実な名前を調べながら |
| 珍しいもの 神社：エゾエノキ、エゾヒメアマナ、キタミフクジュソウ、ウメモドキ、ソヨゴ 水光園：クロウメモドキ、クロビイタヤ、エゾウコギ、ツルマサキ(ヤチダモ)、ヤドリギ(ハルニレ) | | | |

河川環境づくりに地域住民らがボランティアで参加

標茶町 菊地 利長

釧路湿原川レンジャーと釧路開発建設部では、平成12年度から釧路湿原の良好な河川環境づくりのために、地域住民らが参加しボランティア活動を続けていますが、私も12年度から参加し今年で15年目を迎えます。

このボランティア活動には、釧路湿原の周辺に住む子供から高齢者まで幅広い年齢層の町民、市民、さらには弟子屈や標茶町からも参加しています。また活動範囲も、釧路川源流から釧路市の河口まで154kmにわたる湿原の現状維持を目指し参加しています。

ところで、釧路湿原に観られるオオハンゴンソウや外来生物の分布情報等も報告していま

すが、その多くは根が残ると再び成長するのでやっかいな生物です。また釧路川流域に生息する木から種子を採取し、その種子から育てた苗木も植樹しています。

さて、ボランティア活動も今年で15年目を迎え、これまでに延べ人数で約1700名が参加しています。

さらに、今年8月4日の第3回学習会には、標茶小学校から児童6名が参加し、



合計 20 名で水質調査を行いました。

参加者は、ライフジャケットを着用し、4 班に分かれて実施しました。

調査項目は、水質、水温、川底の感触、流速、透視度等「川の状況視察」、さらに事前に北海道から許可を得て採捕した「魚類の観察」等も行いました。

水生生物調査の結果は、全て A ランク、また

生き物の棲みつきやすさの観点でも A でしたが、これには標茶小学校の児童の参加が良かったと思います。

私はこれからも積極的に観察活動や学習活動に参加するつもりです。

次回の第 5 回学習会の開催は、平成 27 年 2 月に「釧路川、標茶町、弟子屈町の生活」で講演を行います。

ウトナイ湖探鳥会に出て

苫小牧市 谷口 勇五郎

11 月 16 日、某会のウトナイ湖での探鳥会に参加しました。くもり時々晴れ、風が無くあまり寒くない日でした。道の駅の湖岸でスコープをセットして始まりました。対岸近くにヒシクイが入っているというのでぞき、くちばしの橙色を確認できました。対岸のハンノキの枝にカワウがいるという。のぞくと腹面が少し白っぽい。ウと言え、大体真っ黒っぽいものと思っ
ていましたが、若鳥らしい。カワウの北限は青森とされていましたが、最近では道内でも繁殖するようになり、ウトナイ湖にも来るようになりました。「カワウと判断したのは、木の上に止まっているからかい？」とリーダーに聞くと、ウミウも木にとまることがあるという。内陸部であり、良くいるからのようである。湖岸の少し遠くにダイサギらしいものが 1 羽います。「チョウダイサギ(亜種：日本で繁殖し冬は南へ渡る)だな」とリーダー。オオダイサギ(亜種：中国東北部で繁殖して、冬に日本に渡り越冬)の方は、首が結べるほどの長さがある云々。ハクチョウやツルは首を真っ直ぐ伸ばして飛ぶが、サギ類だけは首を曲げて飛ぶという(ウミウは少し曲げる)。

数年前までは、道の駅の湖岸で餌やりが行われており(餌の販売をする人もいました)、カモやハクチョウ、水中のコイも多く集まり、大変な賑わいでした。鳥の糞や餌の残りでヘドロのように湖岸が汚れていました。鳥の感染症が流行した時以来、餌やりが禁止され(トラブルもありました)、今では餌やりは見かけません。

カモ類が湖岸で見られなくなり、傷ついて飛べなくなったハクチョウが数羽見られる程度になりました。野鳥の見られる「道の駅」とのことで観光客も多いのですが、飛べないハ

クチョウが数羽、大役を果たしているのです。当日は誰かが餌をやったのかオナガカモが 7~8 羽湖岸で泳ぎまわり、例のハクチョウたちも写真に納まっていました。珍しいことに 2 羽のヒシクイが近くにいました。次々と訪れる観光客がいます。私は探鳥会の一般の参加者なのに、その場を離れいつもの癖で、鳥を見ている客に「あれはガンの仲間のヒシクイですよ。シベリアから渡ってきて本州方面に渡っていく鳥です。人の傍には来ないのですが、これらは珍しいですよ」とか。「これらはオオハクチョウですよ。羽を怪我して飛べないのです」。怪我だなんて夢を削ぐのに、余計なおしゃべりでした。遠方から湖岸に来ている人に鳥の名前ぐらい教えてあげたいのです。その日は何回かガイドしました。飛べないハクチョウやコブハクチョウは湖面が凍りつく頃には、美々川の流入するあたりの氷の張らないところへ移動するそうです。市街地の苫小牧川岸にも飛べないハクチョウが数羽います。それらは他のハクチョウが上空を飛ぶとき声を掛け合っているという。

場所を変え鳥獣センターより千歳側、新しい東屋の木道を過ぎ、階段のあるところに留まる。向こう岸のハンノキにオジロワシが 2 羽止まっています。これらは通年おり、どこかの森で繁殖しているらしい。コブハクチョウが 3 羽、水浴(ゴミや汚れ、寄生虫を除く)をしていました。この鳥はヨーロッパ原産で、40 年ぐらい前、大沼公園にいた 7 羽の子供たちが抜け出し、ウトナイ湖に落ち着いたそうです。一時は数十羽にまで殖えたものの、近親交配のためか最近では減少し、10 羽もいないようになりました。

自然の隙間こそ伝えたい

旭川市 寺島 一男

各地のこれまでにない極端とも思える気象変化を見ていると、地球の体質が急速に変わりつつあることが身にしみて感じます。

体質の変化だから、それは私たちの体と同じように、きっと急にはじまったことではありません。長い積み重ねの中で生じたものです。自然は、その姿が形成されるまでに人間の時間をはるかに超えた時空を経ていきます。壊すのは簡単でも、人間の体のようにそう容易には元に戻りません。

地球の体質の変化をもたらした大きな要因は、人間が自分中心の生産活動を維持するために、そのツケをすべて自然に回してきたからにほかなりません。その結果、自然そのものの姿だけでなく、自然のつながりやはたらきを著しく劣化させました。

そうした反省に立って、近年、生物多様性の保護が国際レベルで提起されています。しかし、いまだ目につくのは旗印のみで、その実効ある取り組みや広がりには手応えがありません。

確かに生物多様性はわかりにくい概念です。現実問題として、実態をとらえにくい一面も持っています。一見、手に負えそうもないようにも思えますが、それは私たちのこれまでのものの見方が、目に見えるものを中心に組み立てられ、目に見えないものを置き去りにしてきた結果ではないかとも考えられます。

言葉を返せば、目に見えないものに対する考えが及ばなかったために、目に見えるもののデリケートな変化に気がつかなかったのかも知れません。

自然観察はフィールドに出て実際の自然を読み解く大切な機会です。目の前に現れる自然の事物を解説するだけでなく、目に見えない自然の隙間を伝えることも大切です。

自然と接することがおもしろい、いままで見えなかったものが見えてきた、自分のしたいことが少し見えてきた、そんな観察会ができたらどんなにすばらしいかと、思いばかり募るこの頃です。

環境への雑感

札幌市 遠田 攻

手稲おろしも、ようやく柔らかな春の香りが感じられるよう時季になりました。

私が住んでいる西野台地を流れる発寒川周辺の山々も、うす緑色に満たされ早春のほっとしたひとときを与えてくれております。

今年は以前にも増して春のおとずれが早く、地表には一面にふきのとうが芽生え、賑わいを添えております。桜も例年ですと、つぼみはほころんでも花びえが続き、そのまま夏を迎えるのが普通でした。今年の桜は異常に早く瞬時にほころび、人々の目を楽しませてくれてはおります。しかし近年の地球規模による温暖化現象、急激な気象変化、地殻変動等は北海道に生きている私たちにとっても深刻な事態になりつつあります。

人間は経済の変化には敏感ですが環境の変化には鈍感であり、そのうち徐々に順応していく傾向があります。私たちが暮らしている北海

道も、いずれ熱帯化し、雪のない状態が当たりまえとされる時代が、数十年のうちにやってくるかもしれません。手の打ちようがなくなる前に、一刻も早く自然環境が自然に循環できる状態を取り戻さなければならないと思います。このまま放置しておく、いずれ地球を失い、人類の滅亡にまでつながっていくのではないのでしょうか？特に原子力廃絶を前提とした自然エネルギーへの転換、自然災害への対策、オゾン層の破壊につながるフロンガスの抑止等、私たち個人だけの力ではどうにもならないことがほとんどです。しかし何度も繰り返し、遅々として進まぬ国や政治に対して、個々人が執拗に主張し続け、働きかけなければ、やがては大きな力となって、未来へはつながっていかないと、思います。

命の尊さを伝えたい

旭川市 原田 幸枝

時は風のように過ぎ去る中、四季を感じ自然の草木や野生生物の命の尊さを伝えたいと活動を始めた。目を閉じ耳で感じる木々の揺れる音やさわさわと草が動く。鳥のさえずる声は心を穏やかにしてくれる。くつを脱ぐと土の暖かさが心地よい。生物の一つ一つの種や生き方の

違ういくつもの命。知ることで、どんどん感動が重なる。北海道旭川、この北の大地の偉大な自然に感謝。身近な小さなことから一人でも多くの方に興味をもっていただけるよう活動から繋がる素晴らしい命について伝えて行きたいと思います。

北海道自然観察協議会創立 30 周年 記念講演会・パネルディスカッション開催のご案内

1985 年(昭和 60 年)に道民に自然に対する興味と関心を高めるため自然観察会の開催活動等を行ってきた北海道自然観察協議会は、今年で創立 30 周年を迎えます。これを記念して標記講演会並びにシンポジウムを開催しますので、会員の皆様方の積極的なご参加をお待ちしております。

♥日時 2015 年 11 月 7 日(土)13:00~16:00

♥場所 札幌市エルプラザ 3 階ホール

(札幌市中央区北 8 条西 3 丁目 TEL011-728-1222)

◆記念講演 『自然の見方、伝え方～天売島の野鳥と生物多様性の保全～』

講演者 寺沢 孝毅氏(LLP 守りたい生命プロジェクト代表)

◆パネルディスカッション

テーマ『自然観察会実施・生物多様性の保全に取り組んで』(報告者 3 人)

◆参加費 500 円(会員は無料)

◆申し込み方法

11 月 1 日(日)まで事務局の池田まで fax もしくは e-mail で申し込みください。
※池田の Fax 並びに E-mail 番号は、本会報の末尾に書いてあります。なお、講演会、パネルディスカッション終了後、講師等を囲んでの懇親会(4000 円程度)を予定しています。

ウオッチングレポート



苫小牧市 「北大研究林」観察会 2015/1/11

野鳥・冬芽・動物の足跡

当日は曇り。0℃、風は無く 2 日前に 10 cm ほどの積雪があり、まずまずの状態でした。駐車

場のそばにあるカラマツの話から始まり、ハルニレやヤチダモの樹形や冬芽の比較、花芽や葉芽の違い、ホウノキやキタコブシの冬芽につい

て説明を行いました。さらに門柱についているキノコを見ながら、その役割についてと北米原産の葉が3本1束のリキダマツとチョウセンゴヨウの球果を見せながらエゾリスの貯食についてそれぞれ説明を行いました。

また地衣類等がびっしり付着している樹木を見ながら、その生育や生態についても解説しました。さらにエゾマツに沢山できている球果上の虫こぶのこと、シカの足跡を見ながら、そ

の歩き方について、キツネ、イヌ、タヌキ、ネコの足跡の違い、並びにウサギとエゾリスの足跡と歩き方について及びカラ類、ダイサギ、マガモなどの野鳥の生態についてもそれぞれ取扱いました。

(谷口 勇五郎)



参加者の声



旭川市「旭山観察会」(2014/9/23)

旭川市 松本 和子

今日は快晴で暖かく、良い天気になりました。お地蔵様を巡るルートを歩き、色々と教えて頂きました。

大木にショッキングピンクの大きな実、足元に草丈10cm程についた赤い実、その他どれも種がギッシリ詰まっていました。

草花を観察するのは五感を使いますね。発見して、触って匂いを嗅いで… 子供の頃の遊びを思い出しました。森林浴して、身も心も清々しくなりました。

ありがとうございました。

北広島市「野幌原始林観察会」(2014/10/26)

北広島市 佐々木 弘道

探してみよう!植物の冬支度。季節外れの暖かさの中、渡された箱を手にフィールドへ。遊歩道の周りにはササが広がります。ササの種類や背丈を見ると、その場所の積雪がわかるといいます。雪がササの冬芽を守るからです。

落葉の下には、根を出したドングリや体を地面に体を沈めたエゾマイマイがいました。配布資料を見ると、気温-24℃でも広葉落葉層2~6cmでは-13℃と保温効果の大きさは驚きです。

野幌原始林は、度重なる台風等の被害でトドマツが激減しているそうです。特別天然記念物の指定も、今は北広島市に一部残すのみ。貴重な針広混交林の衰退は残念です。

最後は、集めた物をお披露目しながら、感想を述べ合い、楽しい情報交換の場となりました。

塚田指導員には、植物の冬支度という切り口で、自然に対する気づきの大切さを教えていただきました。ありがとうございました。



札幌市北区 冬休み雪氷観察会(2015/1/10)

札幌市厚別区 部田 里菜

雪の観察会に初めて参加しました。会場では積もった雪の断面を用い、場所ごとの雪温、重さなどを計測しながら講師から丁寧な説明がありました。層をわかりやすくするため、断面にスプレーで色を付けたり、黒のプレートに雪を乗せ、形をルーペで観察するなど、雪に対する知識がとても深まりました。配布された「雪の観察シート」も役立ちました。

後半は、雪の中でゲームを行いました。雪に

対する感じが変わりました。普段見慣れている景色には、こんなにもたくさんの事実が隠されているのだということはこの観察会を通じて学ぶことができました。一緒に参加した幼稚園年長の弟が、降ってくる雪をじっくり見るようになり、一つ一つが絵に描かれたようなきれいな六角形をしているということがきちんと理解できたようです。参加してとても良かったです。(中学一年生)

札幌市北区 創成川・屯田防風林(2015/1/24)

札幌市北区 國廣 康雄

何の知識もなく何もわからいままにウォーキングの延長で参加してしまいましたが、会員皆さんの話を聞きながら創成川や屯田防風林について約2時間、楽しく散策することができました。

とくに創成川では、水鳥(主にカモ)や土手には動物(キツネ?)の足跡が雪の上であり、このような住宅地で交通量の多い国道側の川で生きている野生動物の生命力には感心いたしました。

また屯田防風林が、現在も自然のままに残されており、サクラ、ナナカマド、イチョウ、カツラ等なじみのある木も多く、注意してみると芽を守りながら春の来るのを待っているなどの説明をして頂き大変、感動いたしました。

私は、昨年 67 歳で仕事を退職し、静岡県から札幌へ転居してきましたが、これからの第2の人生を少しでも豊かなものにするため、北海道の自然観察に興味を持ち、今後も参加したいと思います。



ウォッチングプラン

| 開催予定日 | テーマ | 観察地 | 集合場所・時刻・注意事項 | 交通機関 | 連絡先 |
|--------|---|------------------|------------------------------|--|----------------------|
| 7/5(日) | 「蘭島海岸の海浜植物と海産動物、海底火山の噴火の跡」 忍路神社の祭礼で、神輿が手漕ぎ船で湾内を廻ります。 | 蘭島海岸から忍路峠を経て忍路湾へ | JR蘭島駅 8:30 集合～12:00 忍路湾解散 | 小樽発 8:07 長万部行き、蘭島下車 または小樽・余市間バス (約 20 分おき。約 25 分で蘭島) | 後藤言行 0134-29-3338 |

| | | | | | |
|----------------------|--|-------------------------|---|--|------------------------|
| 7/5(日) | 「精進川」観察会 初夏の精進川周辺を散策してみよう | 札幌市豊平区 精進川河畔公園 | 地下鉄南北線「中ノ島駅」 2番出入口 10:00 集合～12:00 解散 帽子・飲み物・雨具の用意、履きなれた靴 小雨決行 | 地下鉄南北線「中ノ島駅」下車 2番出入口 | 鈴木ユカリ 090-3897-9762 |
| 7/5(日) | 「夏の円山公園」観察会 円山登山 | 札幌市中央区 円山公園 | 地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 9:00 集合～12:00 解散 | 地下鉄東西線円山公園駅下車 | 山形誠一 011-551-5481 |
| 7/12(日) | 「夏の錦大沼」観察会 盛夏の森もよう | 苫小牧市 錦大沼総合公園 | 錦大沼総合公園駐車場8:50集合・9:00～12:00 解散 雨天原則決行・強風日中止 | 自家用車のみ | 渡部悦子 0144-67-8848 |
| 7/12(日) | 「平岡公園」観察会 人工湿原の変わる様子を観よう | 札幌市清田区 平岡公園 | 平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:00 集合～12:00 解散 小雨決行 | 地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」 ジャスコ平岡店行・平岡5条3丁目下車(前方左の緑地歩道を200m, 徒歩5分) | 佐藤佑一 011-881-5336 |
| 7/12(日) | 「街中の自然・屯田防風林」 夏の観察会② 夏編 甘い匂いが漂うオオウバユリ群落の開花を観察しよう! | 札幌市北区 屯田防風保健保安林 | 大内様空き地駐車場(詳細は木村へ問い合わせ) 10:00 集合～12:00 解散(指導員は9:30まで) 雨具、あれば図鑑、双眼鏡 | 中央バス札幌ターミナル発「石狩行き」又は「厚田支所行き」乗車北営業所下車徒歩5分 JR学園都市線新琴似駅下車徒歩15分 駐車場有(大内様宅空き地)10台 | 木村美太郎 011-716-1220 |
| 7月20日 (月)(祝) | 「親子観察会」 水生生物の観察・夏休みの自由研究の下調べにも最適 | 札幌市手稲区 星置川 | JRほしみ駅北口前駐車場 10:00 集合～12:30 解散 濡れてもいい靴 着替え | JRほしみ駅下車 | 横山武彦 011-387-4960 |
| 76(日) | 「手稲山」観察会 夏のゲレンデを山歩しよう | 札幌市手稲区 金山172(山麓駅～山頂) | 「手稲山ロープウェイ山麓駅」駐車場 9:00 集合～14:00 頃解散 昼食持参・飲み物・雨具・筆記用具 雨天中止(都合により途中下山もあります)・トイレはありません。 | 自家用車のみ | 高田敏文 011-684-0989 |
| 8月1日 (土)～ 2(日) | 「第23回滝野の自然に親しむ集い」 滝野自然学園親子1泊2日観察会 夏休み野外学習(親子・子供特集) | 札幌市南区 滝野自然学園 | 申し込み方法、申し込み締切など詳細は未定 決まり次第、新聞、広報誌などでお知らせします お問い合わせは「連絡先」の指導員まで | 地下鉄真駒内駅より中央バス「滝野公園」行き「アシリベツの滝」下車徒歩3分 | 池田政明 011-708-6313 |
| 9/5(土) | 「秋の紋別岳」観察会 秋の花・樹木 | 千歳市 支笏湖外輪紋別岳(864m) | 中央バス支笏湖湖畔バス停前 9:40 集合～15:30 解散予定 登山靴不要 昼食持参 | JR札幌駅7:48 発「エアポート」8:19 千歳駅着 千歳駅前中央バス8:50 発「支笏湖畔行き」支笏湖畔下車 有料駐車場有 | 谷口勇五郎 0144-73-8912 |



☆会計の担当者からもご依頼がありましたように、本年度から会費を値上させて頂きましたが、ご理解の上、納入方についてよろしくご協力の程お願い申し上げます。

☆今月の13日(土)～14日(日)にかけて、東川町において「第503回 NACS-J 指導員講習会」が開かれます。皆様のご協力等によりほぼ定員の45人ほどが参加することになっております。隔年ごとにこの講習会は開催してきておりますが、受講修了者の中から本協会に入会する方々が、また今回もいることと思われまふ。年配の方々もさることながら、特に若い人たちが多数加入されることを期待しております。

☆本年は本協会創立30周年の年です。これを記念してご案内の通り記念講演等を来る11月7日(土)午後1時～4時まで、札幌エルプラザで開催します。記念講演は天売島で長年、野鳥の観察をしてこられたばかりか、今や環境レポーターとしてテレビの自然番組にも出演してすっかりその名を轟かせている寺沢孝毅氏に行っていただくことになりました。会員の皆さんも是非、この機会に他の方もお誘いの上、ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

☆「フィールドニュース」「参加者の声」に掲載した原稿には、昨年頂戴したのものもあります。掲載遅れましたことをお詫びいたします。

☆前回から新連載を始めた山本亜紀小樽博物館学芸員の『嫌われ者～カメムシの世界～』の連載につきましては、紙面の都合により恐縮ですが、次号に回させていただきますので、お詫び申し上げますとともに、ご了承願います。

☆札幌市北区篠路にお住いの引地 輝代子様から葉書50枚の寄贈がありました。有効に使わせて頂きます。誠に有難うございました。(む)

【連絡先】

北海道自然観察協会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768

会 計 三澤 英一 北広島市松葉町5丁目9-16

会費振込加入者名 北海道自然観察協会 三澤 英一

観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461

観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5

TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp

観察会報告書・資料は 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14

TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

退会、住所変更の連絡は 事務局 池田 政明 札幌市北区麻生町4丁目9-16

TEL/Fax 011-708-6313 E-mail ecology@cocoa.ocn.ne.jp

事故発生等緊急時はアスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編 集 部 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30

TEL 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2015年6月15日/第114号 年4回発行
(会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 北海道自然観察協会
編集 北海道自然観察協会編集部